

日本海スルメイカ漁場開発調査

(東奥丸・イカ類漁場調査, 青鵬丸・魚群情報速報事業)

兜森 良則・天野 勝三・涌坪 敏明
○中田 凱久・赤羽 光秋・田村 真通

発 表 誌 名

イカ釣漁場開発調査資料Ⅸ(昭和59年3月)及び昭和58年度外洋性イカ(スルメイカ・アカイカ)に関する生物測定・標識放流・海洋観測基礎資料集

抄 録

昭和58年6～11月の期間において, 試験船東奥丸(調査海域北緯 $38^{\circ}-26'$ ～ $45^{\circ}-18'$, 東経 $134^{\circ}-38'$ ～ $140^{\circ}-03'$)及び青鵬丸(北緯 $40^{\circ}-24'$ ～ $41^{\circ}-44'$, 東経 $138^{\circ}-15'$ ～ $140^{\circ}-02'$)によってスルメイカ漁場調査を実施した。

1. 日本海対馬暖流域の水温は, 58年冬期が温暖に経過したため春期は高め, 6月以降は平年並かやや低目に経過した。
2. 期間中延47回の漁獲試験により, スルメイカ18,494尾が釣獲され, 操業回数も多かったが, 分布は57年を上回っていた。
3. 沿岸スルメイカの北上期の漁況ピークが, 56, 57年では7月にあったのに対し, 58年は6月に出現した。
4. 群構成を見ると沖合海域に冬生れ群と思われる小型な個体の出現割合が高かった。一方, 沿岸域においても冬生れ群の漁獲の山が最近顕著になってきており, 冬生れ群資源に回復の兆しが見受けられる。
5. 58年日本海で漁獲され青森県各港へ水揚げされたスルメイカの量は32,000トンで, 漁獲量レベルとしては沖合, 沿岸ともほぼ57年並で, 近年では55年を除くと資源はほぼ横ばい状態にある。